

日本の公共図書館における高齢者向け生涯学習サービスの実態

尾又 真由

日本の高齢化率は平成 27 年 10 月 1 日現在で 26.7%となり、世界で最も高い水準となっており、今後もしばらくは高齢者人口の増加が予想されている。高齢者はそれぞれ能力や健康状態に差があり、まとめてとらえることが難しい面はあるが、本研究では 65 歳以上の者を高齢者として扱うこととする。

図書館における高齢者サービスには生涯学習の機会の提供が含まれるが、公共図書館における生涯学習について高齢者に直接尋ねた研究は少なく、図書館における高齢者の生涯学習活動の実態は明らかになっていない。高齢者に図書館の生涯学習サービスに対する意見を尋ねることは、高齢者の要望に合ったサービスを提供できるようにし、図書館の高齢者サービスの改善につながる。については本研究では公共図書館の生涯学習サービスに関する高齢者の実態を明らかにすることを目的とする。

本研究では、事前調査としてフォーカス・グループ・インタビューを行った後に質問紙調査を行った。インタビュー調査では図書館を利用する高齢者 5 名を対象に、生涯学習や図書館サービスに関する意見を尋ねた。インタビュー調査の結果を元に質問紙の質問項目を作成し、取手市立取手図書館において質問紙調査を実施した。調査対象者は高校生以下を思われる者を除く 65 歳以上の者と 65 歳未満の者とにわけて比較することとした。質問紙調査では図書館サービス全体および図書館における生涯学習サービスについて尋ね、高齢者の公共図書館における生涯学習サービスの実態を明らかにした。

質問紙調査の結果、図書館を利用する高齢者は、高齢者全体と比較して、教養に関する生涯学習を行っている人が多い傾向にあること、また、教養に関する生涯学習を行う目的で図書館を利用する高齢者が多いことが明らかになった。

さらに、情報端末を使用して公共図書館において生涯学習を行うことや、図書館内に高齢者コーナーを設置することへの高齢者の需要が高いことがわかった。ただし、図書館内に情報端末を用意するだけでなく、使い方や調べ方の説明を行うなどの工夫をしたり、高齢者と呼ばれることに抵抗を持つ人に配慮したコーナーの名称をつけるといったことが必要である。

調査実施館である取手市立取手図書館の設備に対して、65 歳以上と 65 歳未満の者の評価に差があることから、高齢者に配慮した館内図や書架などの設置が求められている。

(指導教員 溝上智恵子)